



# ツキの法則

赤か黒かに賭けるルーレットで赤が7回連続で出たとき、あなたは次にどちらに賭けるだろうか。「赤が7回も連続で出たのだから」と考えて次は黒に賭ける人が多いのではないだろうか。そうでなくても、「まさかあと3回赤が出続けて10回連続ということはない」と考える人はかなり多いだろう。

日常生活やギャンブルの場面で、人々はしばしば「ツキ」や「リズム」を意識してしまい確率論的に最良とはいえない判断をしてしまうことがある。上にあげたルーレットを例にとると、7回連続赤が出たあともう3回連続赤が出る確率は $1/2^3$ であるが、多くの人はもっと低いと感じるのではないだろうか。

本書は、確率・統計理論に基づき、巷にあふれる「ギャンブル必勝法」の持つウソや誤解の指摘、さまざまな賭け方の検討を通じて、「ツキ」の正体を明らかにするものである。

著者は冒頭で「ギャンブルの必勝法は存在しない」と断言したうえで、既存の「必勝法」がいずれも有用でないこと

を論理的に証明する。著者によれば、そもそもギャンブルは「十分大きな回数行われる事象において、結果はより理論上正確な予測値に収束していく」という「大数の法則」により理論上勝てない仕組みになっているそうだ。例えば、ルーレット（期待値は賭け金の94.74%）において勝てば賭け金が倍になる賭けをするとき、収支がプラスである人の割合は、100回程度の試行で4人に1人程度、1,000回の試行でほぼゼロになり、10,000回続けると99.99%以上の人の収支がマイナスになるといふ。著者は「ツキ」の正体について、「統計上必然的に起こるゆらぎ」であると述べている。

しかし、本書の目的は人々からギャンブルの楽しみを奪うことではなく、根拠のない「必勝法」をもっともらしく見せかけ、人々の欲や心のスキ、無知や理解力のなさを利用し金儲けをたくらむ人々への挑戦である、と著者は主張する。そのうえで「どんなにツキが味方しても勝てない賭け方」を解説し、逆に投入金額を抑えながらも勝つ可能性を高め、かつ

大きな満足感が得られる賭け方を紹介している。

「ツキ」というものを学問的に分析しその正体に迫る本書は、ギャンブルを楽しむ人ならもちろん、そうでない人でも興味を持って読むことができるだろう。

(remora)



谷岡一郎著 / PHP新書  
定価：本体660円＋税



## メロンパンスティック

### 材料 (4本分) Ingredienti

- 食パン 1枚
- 小麦粉 大さじ4
- 砂糖 大さじ2
- マーガリン 大さじ2

☆お好みで小麦粉に粉末ココアを少々加えてもよい。

### 作り方 Come cucinare

- ① マーガリンと砂糖をレンジで20秒程度加熱し、マーガリンが少し溶けたら小麦粉を加える。
- ② 縦に4等分した食パンに、粉がなくなるまで混ぜた①の生地をのせる。
- ③ フォークで網目模様をつけ、トースターで4～5分焼く。



Buon appetito!

はみだし  
すてーじ

講義で2/3寝るなら欠席の方がいいですか？  
⇒講義は参加することに意義があるのです。

(文・3 さんさん)  
(そういう私は8/9寝ました；編)